

2019年度第1回町田市廃棄物減量等推進審議会 議事要旨

◇日時：2019年4月25日（木）18：30から21：00

◇場所：町田市役所2階2-1会議室

◇出席者

委員：永井委員（会長）、山下委員、江尻委員、篠木委員、富岡委員、青島委員、小山委員、守谷委員、高橋委員、藤根委員、芦田委員、伏見委員

町田市：町田市環境資源部長、循環型施設建設担当部長、環境政策課長、循環型施設整備課長、資源循環課長、3R推進課長、3R普及担当課長

◇傍聴者：なし

<次第>

1. 委嘱式
2. 副市長挨拶
3. 会長、副会長の選出
4. 報告事項（事務局）
 - (1) 第35回町田市廃棄物減量等推進審議会議事要旨【資料1】
 - (2) 2017年度一般廃棄物資源化基本計画の進捗点検の結果について【資料2】
5. 議題
 - (1) 2018年度ごみ量の推移について【資料3】
 - (2) ごみ減量アクションプラン2018年度の取組経過及び2019年度の取組計画について【資料4】

<資料>

資料1：第35回町田市廃棄物減量等推進審議会 議事要旨

資料2：2017年度一般廃棄物資源化基本計画の進捗点検の結果について

資料3：2018年度ごみ量の推移について

資料4：2018年度ごみ減量アクションプラン施策進捗点検票

参考資料1：アクションプラン評価方法の概要

別紙1：評価シート

【議事要旨】

開会

荻原環境資源部長

1. 委嘱式

2. 高橋副市長より委嘱状の授与及び挨拶

3. 会長、副会長の選出

第8期審議会会長には永井委員、副会長には山下委員が委員からの互選により選出

4. 報告事項 <事務局>

(1) 第35回町田市廃棄物減量等推進審議会議事要旨・・・・・・・・・・資料1

(2) 2017年度一般廃棄物資源化基本計画の進捗点検の結果について・・資料2

《質疑応答》

委員：資料2の評価のA～Dの考え方が分からない。

環境政策課長：参考資料1に凡例がでているとおりである。

5. 議題

◎ごみ減量アクションプラン評価について、評価方法の説明

<事務局説明>

(1) 2018年度ごみ量の推移(資料3)について<町田市説明>

《質疑応答》

委員：生ごみの量はどのように出しているのか。

資源循環課長：毎年ごみの組成調査を行っている。そこから生ごみの量の割合を出して、全体の量にかけて出している。

委員：粗大ごみ、不燃ごみ、有害ごみの違いは。

資源循環課長：粗大ごみは40ℓの袋に入らないものである。有害ごみは乾電池、蛍光管、水銀体温計などである。

委員：横浜線以南地域の燃やせるごみ量の内訳として、それ以外の地域と比較して容器包装プラスチックが少ない理由は。

環境政策課総務係長：横浜線以南の地域では容器包装プラスチックの分別収集を行っている。そのため、それ以外の地域と比較して燃やせるごみに含まれるプラスチックの割合は少なくなっている。ただし、横浜線以南の地域についてもプラスチックが約50グラムは含まれており、更なる資源化が可能と考えている。

委員：回収したプラスチックは、燃焼がエネルギー効率上もっともよいのであるが、どのようにリサイクルしているのか。

資源循環課長：圧縮してベールという塊にして、容器包装リサイクル協会に引き渡している。協会ではいろいろな事業者を選定し再利用を委託している。マテリアルリサイクルやサーマルリサイクル等、様々な方法でリサイクルされている。

(2) ごみ減量アクションプラン 2018 年度の実施経過及び 2019 年度の実施計画について

ターゲット1 生ごみ【項番 1,2,3】＜町田市説明＞

《質疑応答》

委員：生ごみ減量のキャンペーンについて、カラス対策とからめてキャンペーンを行ってはどうか。

3R 普及担当課長：ご意見を参考にしたい。ごみを出す方々にとってカラス対策は身近な問題であり、貴重なご意見として承ります。

委員：生ごみ減量のキャンペーン数は増えているのか。また水切りキャンペーンについて、新たな層の参加を促すことができたかあるが、どういうことか。

3R 普及担当課長：回数は増えている。また回数を増やすだけでなく、ターゲットと開催場所を工夫し、新たに子どもセンターで実施したことで、子育て世代をターゲットにして啓発することができたと考えている。

委員：大型生ごみ処理機のアンケートは、なぜ3団体にしたのか。

3R 普及担当課長：大型生ごみ処理機は5年で更新なのだが、2018年度に更新する団体が3団体だったため、そこを対象に行った。

委員：アンケートでは、どのような意見があったか。

3R 普及担当課長：良い意見としては、いつでも出せるので生ごみを家に溜めておかなくていいという意見があった。他には、においが気になるという意見があった。詳細は現在集計中である。

委員：鶴川団地の自治会で大型生ごみ処理機を15台設置している。当初たい肥の使いみちを心配したが、現在ではすぐに無くなっている。ごみについても、処理機を使用することで半分近く減量することができる。管理についてもほとんど手がかからず、自治会としては非常に喜ばれている。

委員：生ごみ3,000トン減量を掲げているが、施策が実際の減量に結びついていないかが見えてこない。減量数が見えないと評価がしづらい。

委員：委員として評価する際に、数量的なところも重視する必要があるが、前年度に比べて新しい取組も行っている。その取組についても評価をしてもいいのではないかと考える。

3R 普及担当課長：大型生ごみ処理機については、現在 69 台となっており、目標値には届いていないが、他自治体と比較するとかなり多い。新しく導入しようとする際の地域としての合意形成が課題となっている。

委員：大型生ごみ処理機はたい肥化するタイプの機械か。

3R 普及担当課長：市で設置しているものは全てたい肥化するものである。

ターゲット 2 紙類【項番 4】<町田市説明>

《質疑応答》

委員：ペーパーレス化で紙全体が減っているという話ではあるが、以前と比べてチラシの量が増えている気がする。

3R 普及担当課長：チラシは、販売店で回収する場合は新聞と一緒に出してもらってもいいし、雑がみとして出してもらってもいい。ごみにならないように出してもらえればいい。チラシの量については減っていく傾向にあるとは思いますが、注視していきたい。

ターゲット 3 事業系ごみ【項番 5,5-a,5-b,5-c,6,7】<町田市説明>

《質疑応答》

委員：古紙問屋は、3 業者以外には受け入れてくれる可能性はないのか。

資源循環課長：市内 3 業者以外に、相模原市に古紙問屋があることは把握しているが、町田市の事業者からの受け入れの条件について確認が必要である。引続き受け入れ可能な問屋があるかどうか調査していきたい。

委員：項番 7 の紙類回収拠点については、取組経過等をみると今後もゼロのままでもう増えないのではないか。毎年市の評価が×になってしまうのではないか。

環境政策課長：現在のアクションプランにこの目標が出ており、今回はこのアクションプランについて評価をしてもらっている。目標についてはご意見等をふまえて、次期計画で見直していく。

委員：中小事業者は排出量が少ないので売払いができず、それならば分別をしないで可燃ごみとして出した方がコストもかからずに済むと考えるところもいるようである。事業系も家庭系と同様にステーションに出せるようにする等の対策が必要なのではないか。

3R 推進課長：現存のステーションは広さに限りがあり、事業者が出すとすぐにいっぱいになってしまうという問題もあるが、ステーション方式も一つの方法と

して、事業者からのヒアリングを行いながら検討していきたい。

委員：事業系と家庭系の分別の違いを周知徹底するのは難しい。弁当等のプラスチックごみが事業系の場合は産廃になることを理解している人は少ない。許可業者から注意すると嫌がる事業者も多いので、町田市から指導をしてもらった方が効果的である。大型店の店長会等で説明をしていただけるとより効果があるのではないかと。

3R 推進課長：従業員が分別を行う際、家庭での分別と同様に行ってしまうことがあるというのは認識している。事業所の中での分別を可燃・不燃でなく、産廃・一廃という表記にする等の方法を町田市から案内する必要もあると考えているので、周知の方法を検討していきたい。

ターゲット 5 協働パートナーシップ【項番 8,8-a,9,9-a,9-b,9-c,10】 <町田市説明>

《質疑応答》

委員：アパートの住人は自治会にも入らず、ごみの出し方が分かっていない人が多い。不動産業者等への働きかけを 1 回だけでなく、継続的に行っていないと効果があらわれてこないのではないかと。

3R 普及担当課長：不動産業者への個別の働きかけは従前から行っているが、説明会については業者の方々が集まる場を活用してようやく 1 回実施することができた。入居の手続きを行った方に対してごみの出し方ガイドや分別アプリの案内を行うことは重要であると考えている。個別の働きかけは今後も継続して行っていく。

委員：商店会で行っているリサイクル広場はまだ拡大の余地があると思う。スケルトンごみ収集車も啓発に有効なので、色々な商店会に薦めている。

3R 普及担当課長：リサイクル広場については、定期的な開催には至らないものの年一回くらいの開催を続けているところがある。そのような場所での開催回数が増えていけばと考えている。スケルトンごみ収集車を活用した啓発は引き続き行っていきたいと考えている。

委員：項番 9-a のスーパー・コンビニでの啓発活動の数字が伸びない理由は。

3R 普及担当課長：内容を充実させて行うことに重点を置いていることにより数字としては伸びていない。店舗側の協力が得られないことが実施回数が伸びない主要因ではないので、職員の体制も含めて回数が伸びるように検討していきたい。

委員：リサイクル推進店へアンケートを行ったとあるが、何店舗に対して行ったのか。推進店以外へのアンケートはなぜ行っていないのか。

3R 普及担当課長：推進店 53 店舗に対して行った。まずは第一段階として、リサイクルに協

力している店舗に対して行うという意図で行った。それ以外の店舗に対しても状況を知る必要があることは認識している。

委員：転入者に対してはどのような啓発を行っているのか。

3R普及担当課長：ごみの出し方についての啓発とアプリの紹介を行っている。

委員：地域資源回収は市の回収とルールが違うと思うがそのあたりはどのように周知しているのか。

3R普及担当課長：資源とごみの出し方やカレンダーを配布しているが、その中で地域資源回収については実施団体に問い合わせてもらおうよう案内している。

会長：多くのご意見ありがとうございました。本日確認したことをもとに、委員の皆様は施策の評価をお願いします。町田市には、その評価結果をもとに2019年度の取り組みへ反映できるか検討していただき、結果について次回の審議会へ出していただきたいと思います。

《事務連絡》

事務局：次回の審議会は7月11日木曜日18時30分から開催する。次期計画策定のための審議会は、11月、1月、2月に各1回を予定している。

会長：終了宣言